［創立60周年 since 1962］ 東京バッハ合唱団 月報
［第 726 号］2022 年 12 月号 「クリオラ・シングイン」特集Web2.0
〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.726
December 2022
—
5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

《クリスマス・オラトリオ》を、みんなで歌いましょう

大村 恵美子（主宰者）

「ク、リ、ス、マ、ス」。これが、最近認知症となられた方の口から、私が確かに聞いたひとことでした。その方は、私たちに最も近くに住んでおられる、有名な方です。平和運動の会で、いつもその締めくくりに、大きく明かるい、しっかりしたお声で、「どんなことがあっても、絶対に戦争を避け、平和を守り抜きましょう」と力強く満場の人々に呼びかけ、これを聞くためにいつも出席するのです、という声ばかり。大きく盛り上がって散会となるのでした。

ところが、何と、100 歳を大きく超えておられる、その方までをも、認知症が待ち構えていたのです。お住居は私たちの家のすぐ近く、コロナの用心のため、お見舞いに伺いたいのを抑えていたところ、ひょっくりと、奥様の押される車椅子で、ご訪問くださいました。そんなに長くは外出できず、お顔を合わせたらすぐそのまま帰ります、との奥様のお言葉。それでお茶も出せず、今度は、私共 2 人が加わって、4 人でご自宅まで同行しました。

私がそのお肩を軽くトントンと叩いたときに、ハッキリきこえたのが、「クリスマス……」だったのです。時期は夏だったのに、どんな意味でしょうか。私はとっさに、謎が解かれたような気になりました。「もうすぐクリスマス、みんな集まって、歌ったり笑ったりする日が来ますね……」、こんな風にきこえたのです。この方らしい――、と感じ入り、返答は笑顔とうなずきだけでした。

もうひとつ、別のお話し。11 月 17 日、私たちにはあまり覚えのない方から、立派なリンゴのぎっしり詰まった、大きな箱が送られて来ました。大急ぎで記憶をたどってみると、50 歳で早々に病死した私の兄の知り合いで、中学・高校を通じて同学年の「三羽がらす」と多くの友達から歓迎されていた方のおひとりの、その甥御さんだということでした。「からす」たちも、ご存命なら、すでに 100 歳過ぎでしょうから、その甥御さんといってもそうとうなご年配のはず。

そういう方が、「鈴木祥司（じょうじ［兄の名］）さんは、もう天国なんだな、でも妹さんがいらしたはずだから、クリスマス前にリンゴを送ってみよう――」こんなことだったのでしょうか。私は今でも、夢の中に、軽妙で妹思い、人思いの、懐かしい兄を、よく見るのです。さっそく 3 日後の、合唱団の練習日に運んで、みんなで 1 個ずつ持ちかえり、私の家には 5 個余って、おいしくいただきました。

クリオラ・シングイン 2022
東京バッハ合唱団・創立 60 周年記念企画
12 月 3 日、荻窪教会

クリスマス近くなると、何かどこかに寄付・献金したくなる。公共の福祉施設だったり、この方のように、日頃気がかりでいた個人の方に、リンゴなどでも……となるのでしょう。日本でも、キリスト教が入って来ると、「クリスマス」も覚えることになり、プレゼントを考える。ご丁寧にも、その数日後の新年元旦もおめでたいものだから、その日のために更に、お年賀の品（こどもにはお年玉）も用意してしまう（あるいは 12 月早々に「暮れのおせいぼ」も）。

日本人のプレゼント好みは、世界中でもトップクラスではないかと思いますが、私自身も、その例に洩れず、（クリスマスだけに限らず）既知の友、未知の友、人手の欲しい方々、そんなみんなに、関係があればいつでも、笑顔で何かプレゼントしたくなるのです。自分がエラいだろうと思われるためではなく、「ああ、困難がこれでほんの幾らかでも減るようならいいけれど」と期待をこめて祈りながら、なのです。そしてその相手が喜ばれたら、もう「バンザーイ！」と声を出したくなる位、心から嬉しくなります。

そんな私にとって、「クリスマス」は、本当のことをいうと、「神の子イエス・キリストの誕生された、ありがたい日」なのは確かでも、実生活ではすぐに、「あの人にはこうしたら、的はずれでなく、本当にピッタリのものが届けられるだろうか？」と、心配したり、ワクワクしたりの日々になるのです。クリスマスの受け取り方にしては、何とも俗っぽいのが、私の態度ですね。

とにかく平和で、おめでとう！ 世界中から戦争を消そう！ 想いをとどけよう、優しさをとどけよう、クリスマスの歌を、みんなで歌おう！

月報 2022 年 12 月号 特別紙面 CONTENTS

・「キラキラ星変奏曲」歌詞 （松尾茂春）…p. 2-3
・「クリスマス・オラトリオ」訳詞（大村恵美子）p. 3-5
・連載：退屈するのはいそがしい［22］（大野博人）p. 6

［歌詞］

キラキラ星変奏曲 Version 2.0

Choral Variations on “Twinkle, twinkle little star”

——主題と１＋40 の変奏で歌い綴るイエス・キリストの足跡——

作詞/作曲：松尾 茂春（東京バッハ合唱団員）

No.1　Var.0

小シンフォニア(Sinfonia)

No.2　Theme 星を見上げて(テーマ)

空に輝く 不思議な星よ！
どうして光る？ 何があるのか？
明かるく光る 不思議な星よ！

星はきらめき 喜び告げる
救いのみ子が 今 生まれたと
星は伝える 嬉しい知らせ。

No.3　Var.1 大いなる光

闇の中を歩む民は 見る，
大いなる 光を！

イザヤ 9:1

No.4　Var.2 待降のキャロル

闇夜を照らす光、おぉ！ 主イエス！ この世に来ませ。
久しく待ち望む、暁の星なるイエス。
この世の闇を裂き、おぉ！ 君よ！ 来たりて輝け！

No.5　Var.3 みつかい告げる(受胎告知)

みつかい告げる おとめマリヤへ。
神のひとりご なれよりうまれ、
この世をおさめ 共に居られる。

ルカ 1:26-38

No.6　Var.4 マリヤの讃歌（Magnificat）

わが心は 主なる神を まごころもて 崇めまつる。
　Magnificat anima mea Dominum.
わが魂 救いの主を 喜びもて 褒め讃える。
　Et exsultavit spiritus meus in Deo salutari meo.
主は 卑しきわが身にさえ その眼差し たもうゆえ。
　Quia respexit humilitatem ancillae suae;
今よりのち 世の人 皆 われを呼ぶ いとも 幸いなもの！
　Ecce enim ex hoc beatam me dicent omnes generationes.
み力もて 主は この身に 大いなるわざ なしたがゆえ
　Quia fecit mihi magna qui potens est;
聖なる主の御名、主の御名 尊く、
　Et sanctum nomen eius.
その憐れみは 主を畏れる者に 世々 限りなく
　Et misericordia eius a progenie in progenies timentibus eum.
主は み腕で 力をふるい、驕れる者を 打ち散らし、
　Fecit potentiam in brachio suo: Dispersit superbos mente cordis sui.
権力者を 引き下ろし、低き者を 高くあげ、
　Deposuit potentes de sede et exaltavit humiles.
飢えた者を 良きもので満たし 富める者を 退ける。
　Esurientes implevit bonis: Et divites dimisit inanes.
主は 憐れみを 忘れず 僕(しもべ)イスラエルを 救われた、
　Suscepit Israel puerum suum recordatus misericordiae sue.
わが祖先に言われたとおり、
　Sicut locutus est ad Patres nostros,
アブラハムと子孫に 永遠(とこしえ)に。
　Abraham et semini eius in saecula.
栄光は 父と、子と、聖霊に
　Gloria Patrie et Filio et Spiritui Sancto.
始めも 今も つねに 永久(とわ)にアーメン。
　Sicut erat in principio et nunc et semper et in saecula saeculorum. Amen.

ルカ 1:47-55

クリオラ・シングイン 2022

Ｊ．Ｓ．バッハの《クリスマス・オラトリオ》（略して「クリオラ」）を歌った覚えのある方——日本語/ドイツ語/英語を問わず——！「シングイン形式」のぶっつけ本番に参加しませんか？

初回（昨年 12 月）の好評をうけ、第 2 弾。今回は《クリオラ》の後半（第 4-6 部）の合唱部分を取りあげます。

なお、創立 60 周年の記念として、当団ベテラン団員の作品《キラキラ星変奏曲》を団員のみで演奏し、みなさまにご披露させていただきます。ご存じ「キラキラ星」の主題を変奏させながら、キリストの全生涯を歌いつくした渾身の大作です。今回はそのほんの一部分の紹介ですが、教会聖歌隊などで、ひろく取り上げていただければ幸いです。

＜PROGRAMME＞

■キラキラ星変奏曲

＜主題と１＋40 の変奏のうち，Nos.1-13，43＞

・作詞/作曲/指揮：松尾茂春（東京バッハ合唱団員）
・チェロ：椿 周　・オルガン：田尻明葉
・合唱：東京バッハ合唱団

■クリスマス・オラトリオ BWV248

＜後半 3 部の合唱部分を中心に、シングイン＞

・管弦楽：ＡＲＳ（ｺﾚｷﾞｳﾑ・ｱﾙﾓﾆｱ・ｽﾍﾟﾘｵｰﾚ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ）有志
　ヴァイオリン 井上薫子／戸ヶ崎真央
　ヴィオラ 宮本征和、チェロ 椿 周、コントラバス 佐瀬祥平
　トランペット 福島悠介／織田得郎／程内隆哉
　ホルン 市原秀紀／吉岡茉祐子、フルート 高角健志
　オーボエ 椿 高明／椿 奏重
［ティンパニ、今回は太鼓で代替 室田千晶（東京バッハ合唱団員）］
・オルガン：田尻明葉　・訳詞/指揮：大村恵美子
・合唱：クリオラ・シングイン合唱団 2022（お集りの皆様）

＜後援：杉並区＞

終了予定 16:00

No.7　Var.5 ベツレヘムへの旅路

荒野(あらの)を進む ヨセフとマリヤ
ナザレをい出て、　ベツレヘムへと。
そこに宿なく、　馬屋に宿(しゅく)す。

ルカ 2:4

No.8　Var.6 ベツレヘムの馬小屋で(イエスの誕生)

ユダヤの町ベツレヘム
粗末な馬小屋に
密(ひそ)かに横たわる マリヤに今、
初子(ういご)が生まれる。
輝く星の光のもとに 貧しきまぶねのなか、
やすらに眠る 嬰児(みどりご)主イエス。
ダビデの町ベツレヘム
聖なるその時に 低きに生まれたもぅ
見よ! 清らかに眠れる
嬰児(みどりご)はキリスト!

ルカ 2:6-7

No.9　Var.7 羊飼いのカノン

ルカ 2:8

No.10　Var.8 羊飼いへの良き知らせ

みつかい天より告げる牧人へ
栄光が天に、地には平和があるように
御子イエス、天よりくだる
みすくいのために

ルカ 2:13-14

No.11　Var.9 天使の讃美 (Gloria)

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

ルカ 2:14

No.12　Var.10 馬屋に急げ!

急いで行こう　主イエスは生まれた。
星は導く　ベツレヘムへと。
馬屋の中に　救いの喜び。

ルカ 2:15-16

No.13　Var.11 みどり子イエスの子守歌

みどり子イエスは　まぶねに眠る。
われらの罪を　その身に負うため、
貧しく清く　眠る神の御子。

ルカ 2:17、マタイ 2:11

――― №.13 から No.42 までは、今後の上演をお待ちください ―――

No.43　Theme 再び星を見上げて

見上げる空に 星は輝き、
変わることなく 証し伝える、
神のみわざを イエスの恵みを。

【当楽曲の楽譜をご希望の方、受付にて販売。頒価:1500 円】

■右上図
ジョット (1267 頃-1337)「キリスト降誕」(フレスコ画, スクロヴェーニ礼拝堂・パドヴァ)

J. S. Bach
クリスマス・オラトリオ BWV248

＜シングイン形式による抜粋演奏＞

訳詞 : 大村 恵美子

●［皆さん］本日の参加者の皆さん、［朗読T］本来レチタティーヴォのところ、テノール団員の朗読で代替。●書体 :［明朝］創作自由詩、［丸ゴシック］福音書引用、［ゴシック］コラール歌詞。

クリスマス・オラトリオ 第 1 部

1) 合唱［皆さん］

喜べや この よき 日を いざ ともに
ほめたたえよ この日 なしたまいし 大みわざを
捨てよ 嘆き 悲しみを
声高く たたえよや
ささげん 妙なる 歌を
み名を われら ほめたたえん

クリスマス・オラトリオ 第 4 部

36) 合唱［皆さん］

ささげん 頌(ほ)め歌を
神の み前に
　み子は
　地に 来たり
　あがない主と なりたまい
　み子は
　あだを とり鎮(しず)めたもう

37) エヴァンゲリウム［朗読 T］

八日 満ちたれば, その 幼な子は イェスと 名付けらる. あまつ み使いの さきに マリヤに 告げし ごとく.

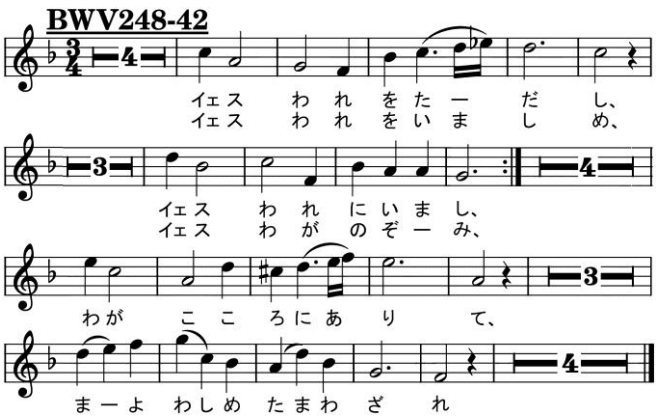
(ルカ 2:21)

42) コラール［皆さん］

イェス われを 正し

イェス われに 在(いま)し
イェス われを 戒しめ
イェス わが 望み
わが 心に ありて
迷わしめたまわざれ

J･リスト「イェス 助けたまえ」(1642)第 15 節，バッハ旋律か？



クリスマス・オラトリオ 第 5 部

43）合唱［皆さん］

栄光を 主に 歌わん
なれを 頌め讃えん
こぞりて あがむ
この日 願い 成りて
主の み恵み
われらの 上に
満ち満ちたれば なり

44）エヴァンゲリウム［朗読 T］

イェスは ヘロデ王の とき，ユダヤの ベツレヘムに 生まれたまいしが，見よ，イェルサレムに 東の 博士ら 来たりて，言えり：

（マタイ 2:1）

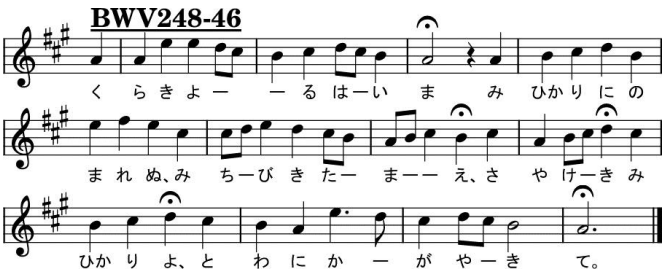
45）合唱［皆さん］と レチタティーヴォ(A)

いずこ 生まれし ユダヤの 君は？
　求めよ 彼を
　わが胸の 奥深く
われら かの星を 見たり 東に ありて
そを 拝まんために われら 来たる　（マタイ 2:2）
　幸 あれ 光を 見しもの
　こは なれらが
　救いの み光ぞ
　あまねく 異邦(とつくに)まで 及ぶ
　いまだ おのれの 主を
　知らざる者 なれど
　いかに さやかなる
　主の 光は！

46）コラール［皆さん］

暗き 夜は いま
み光に 呑まれぬ
導きたまえ
さやけき
み光よ
とわに 輝きて

G･ヴァイセル「いざ愛する魂よ 今ぞその時」(1642)第 5 節



48）エヴァンゲリウム［朗読 T］

これを 聞きて ヘロデは 怖る. イェルサレムも みな 然り.

（マタイ 2:3）

50）エヴァンゲリウム［朗読 T］

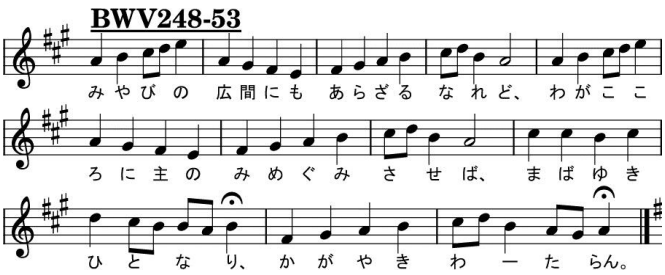
ヘロデは 民の 祭司長 学者らを 集めきたり，尋ねもとむ：キリストは いずこに 生まれんや？
かれら 言う:「そは ベツレヘム，預言者に より かく しるされたる ユダの 町なり.『なんじ ベツレヘム, ユダの 町よ, なんじは いと 小さき ものに あらず，ひとりの 君 なれより 出で，わが 民 イスラエルを 治めん』」

（マタイ 2:4-6）

53）コラール［皆さん］

雅びの 広間にも
あらざるなれど
わが 心に
主の み恵み 射(さ)せば
まばゆき 陽(ひ)と なり
輝きわたらん

J･フランク「さやけきみ空よ 明るき星よ」(1655)第 9 節



クリスマス・オラトリオ 第 6 部

54）合唱［皆さん］

主よ 驕(おご)れる 敵(あだ)に
勇みて 向かわしめよ
み力に 頼りて
　主に のみ 依りたのめば
　鋭き あだの 爪より
　逃(のが)るるを 得ん

55）エヴァンゲリウム［朗読 T］

ヘロデ ひそかに 博士らを 召し，かの 星の ことをば かれらに 問いただし，ベツレヘムに 向かわしめて 言えり：「行きて 幼な子を 尋ねよ，これに 会わば われに 告げよ，われも 行きて 拝まん」

（マタイ 2:7, 8）

58）エヴァンゲリウム［朗読 T］

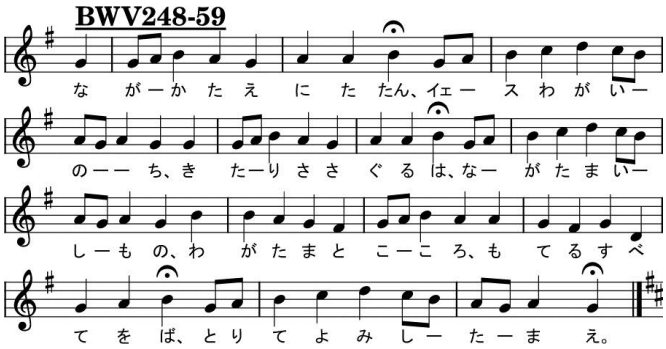
博士ら 王の ことばを 聞きて 行きぬ．見よ，すでに 東にて 見たる かの 星 先だちて，み子の います 地の 上に とどまりぬ．かれら 星を 見て 喜び 満ち，家に 入りて マリヤと ともなる み子を 見たり．かれら そを 伏し拝みて 携え来たる 宝の 箱をば ささげぬ．

（マタイ 2:9-11）

59）コラール［皆さん］

ながー 傍(かた)えに 立たん
イェス わが いのち
来たり ささぐるは
ながー 賜いし もの
わが 魂と 心
持てる すべてをば
とりて 嘉(よみ)したまえ

P・ゲールハルト「ながー傍えに立たん」(1656)第 1 節



60）エヴァンゲリウム［朗読 T］

博士ら 夢にて み告げを 受け，ヘロデに 戻らず，おのが くにを さして 去りゆきぬ．

（マタイ 2:12）

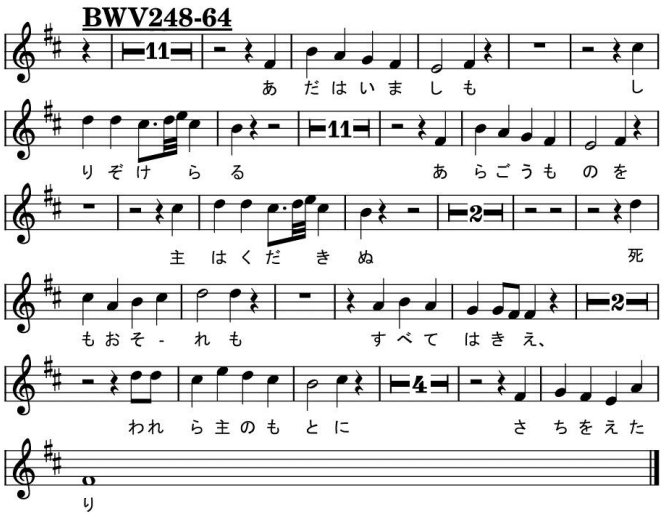
63）合唱［皆さん S/A/T/B］

死の 怖れは 消え
罪の 力も 失せ
主の み手に 憩わん

64）コラール［皆さん］

あだは 今しも
退けらる
抗(あらご)う 者を
主は 砕きぬ
死も 怖れも
すべては 消え
われら 主の もとに
幸を 得たり

G・ヴェルナー「選ばれし民」(1648)第 4 節
旋律：第 5 曲と同曲



＜演奏者紹介＞

■管弦楽：**コレギウム・アルモニア・スペリオーレ・ジャパン（略称ＡＲＳ）**有志の方々の友情参加

2018 年に誕生した演奏家のための“研鑽団体（Collegium)”．経験豊富な演奏愛好家と音楽専攻を目指す学生を対象に，緊密なアンサンブルによる“よりよき響き（Armonia Superiore)”の追及を目的とし，マスタークラスや演奏会実践形式での研鑽を実施している．2019 年に当合唱団の小布施・野尻湖コンサートツアーに有志が同行して以来，活動趣旨を共有して協演をつづけている．

■オルガン：**田尻明葉**

東京音楽大学付属高校、東京音楽大学ピアノ科卒業後、桐朋学園大学カレッジディプロマコース、コントラバス科を卒業。ピアノを河原元世、樋口恵子、オルガンを植田義子の各氏に師事。コントラバスを齋藤順、市川雅典、石川浩之の各氏に師事。モスクワ音楽院常葉学園オーディション合格。選抜によるファイナリストコンサートに出演。ぎふリスト音楽院マスタークラスに参加。2010 年別府アルゲリッチ音楽祭にオーケストラのメンバーとして参加。当合唱団第 117 回定期演奏会（2018 年 12 月）以来、多くのコンサートで協演している。当合唱団の練習伴奏者としても活躍し、日ごろの合唱練習を支えている。

■訳詞と指揮：**大村恵美子**

東京バッハ合唱団主宰者．1962 年東京バッハ合唱団を創立，年数回の公演を実現させつつ今日に至る．現在までに教会カンタータ，受難曲，オラトリオ，モテット，ミサ曲など，バッハの宗教合唱作品のほぼ全曲の上演用訳詞を完成．その中の多くを自らの指揮で上演している．本年，合唱団創立 60 周年を機に『日本語版バッハ・カンタータ楽譜全集』（ブライトコプフ版底本、全 192 曲予定）未刊分の 10 年後完結の計画を発表した．

■合唱：**クリオラ・シングイン合唱団 2022**

（本日参加の皆さん＋東京バッハ合唱団）

■**東京バッハ合唱団**

教会カンタータを中心に、モテット、オラトリオなど J.S.バッハの合唱作品を研究し、ソリスト・オーケストラとともに演奏する団体として、1962 年大村恵美子の呼びかけで発足。国内では、日本語訳詞（大村訳）での上演を原則とする。ライプツィヒ聖トマス教会（1983 年、わが国のコーラスとして初公演）などドイツ各地での公演も行ってきた。2022 年 7 月に創立 60 周年を迎えた。

◆上演用歌詞対訳は，当団ＨＰからご覧いただけます．
http://bachchor-tokyo.jp/japanese_words/index.htm

＜連載随想＞ 退屈するのはいそがしい［22］

落ち葉の行方

安曇野閑人　**大野 博人**

どうか忘れないでほしい／ぼくたちが愛し合っていた幸せな日々を／あのころ、人生は今よりもっと美しく、太陽はもっと輝いていた／枯れ葉がシャベルで集められていく／わかっているかい、ぼくは忘れなかった／枯れ葉がシャベルで集められていく、後悔や思い出もいっしょに／そして、北風がそれを忘却という冷たい夜に運び去ってしまう

シャンソンの名曲『枯れ葉』の一節。マロニエの枯れ葉が散るパリの街角を彷彿とさせるジャック・プレヴェールの歌詞とジョゼフ・コスマの名旋律に、人は自分の過ぎ去った人生を重ねずにはいられない。

私も聴くたびに感傷にひたってきたのだけれど……。

安曇野の雑木林の枯れ葉も、甘く切ない気分を誘わないわけではない。だが、それではすまない。なにしろ、落ちる量が半端じゃない。

あざやかな彩りで秋を演出した紅葉がピークを迎える11月半ば、ある日、強い風が吹く。すると、ばさばさと大きな音を立てながら木々からいっせいに枯れ葉が落ち始める。林の中に降り注ぐ赤や黄色の乱舞には見とれてしまう。しかし、それがなかなか終わらない。

その日の朝、拙宅のまわりの道一面に散っていた枯れ葉を掃除したばかりだった。ところが、数時間後にはもう同じ道がすっかり枯れ葉でおおわれているではないか。路上にせり出している木々の枝がいっせいに葉を落としだしたのだ。

掃いても掃いても道はきれいにならない。

むなしい思いが、仲間と練習しているバッハのブランデンブルク協奏曲第3番を思い出させた。第1楽章後半にあるチェロのパートのやっかいなフレーズだ。音を少しずつ変えながらアルペジオで進行する5小節。正確に音をとるのがけっこうむずかしく、パート全員の音程がなかなか合わない。

さらってもさらってもきれいにならない。だから「ドブさらい」と呼ばれる。枯れ葉の掃除も同じ。さらってもさらってもきれいにならない。なんとか掃き集めて、こんもりとした小山を道路脇につくる。で、ふり返ると、またしても道路は一面の枯れ葉。少々の北風が運び去れるような量ではない。

枯れ葉の小山が道ばたにいくつもできたころ、軽トラックでやってきたおじさんに声をかけられた。

「この枯れ葉、もらっていっていいですか？」

「どうするんですか？」

「腐葉土にして畑で使います」

「なるほど。どうぞ、どうぞ」

かくして、大量の枯れ葉は北風ではなく軽トラのおじさんが運び去る。もちろん、「忘却という冷たい夜」にではない。近所の畑に、である。

おじさんが運び去ってもまだまだ枯れ葉は落ちてくる。私たちも自分の畑にまとめて持っていくようになった。広葉樹に加えて、アカマツも大量に葉を落とす。こちらは、乾かせば薪ストーブの焚きつけに最適である。すっかり茶色くなった道路を少し掃くだけで、すぐにバケツがいっぱいになる。

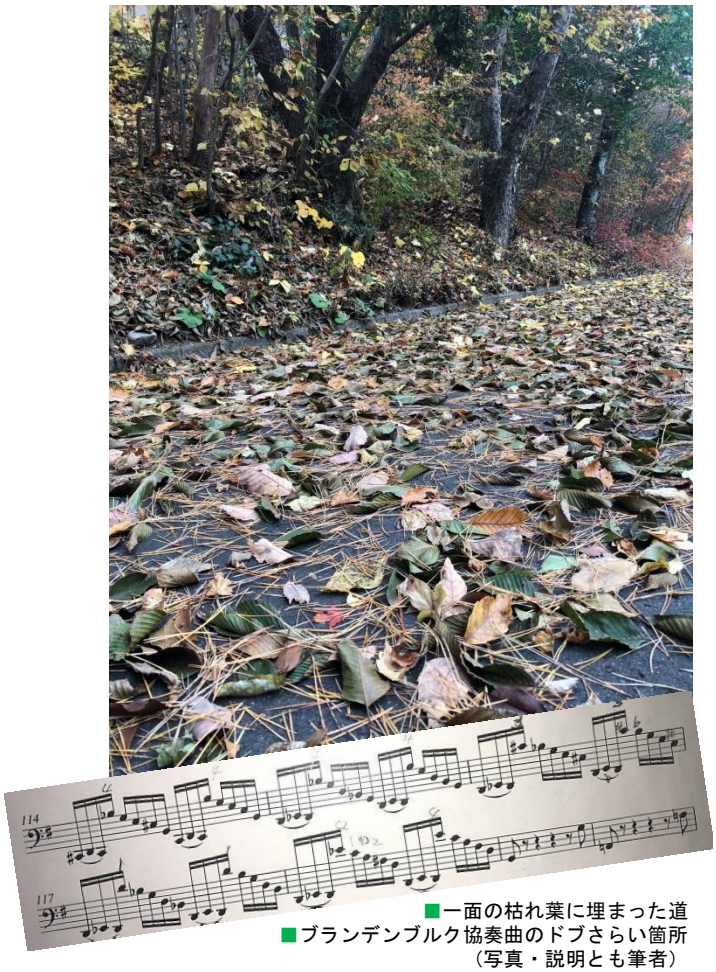
安曇野に暮らすようになってからは、自然をながめる目がちがってきたような気がする。季節が変わるたびに雑木林の変化の美しさに感動しながらも、落ちている枯れ枝が焚きつけに、太めの倒木が薪に見えることもしばしば。詩的な光景に魅了されているはずの心に、実用への雑念がどうしてもまじる。

ここのところ、冷え込みが強まっている。季節は晩秋から冬へ。また『枯れ葉』が聴きたくなってＣＤをプレイヤーに入れる。イブ・モンタンがささやくように歌い始める。

「どうか忘れないでほしい」

そうだ、覚えておかなきゃ。明け方には氷点下になるかも。霜柱ができたら、タマネギの苗が浮いてしまうかもしれない。明日の朝は、根元を踏みにいかなければ。忘れないようにしなくっちゃ……。

（団友・後援会員、元朝日新聞記者）



■一面の枯れ葉に埋まった道
■ブランデンブルク協奏曲のドブさらい箇所
（写真・説明とも筆者）